



環境教育

1 環境教育の現況と課題

環境教育は、人間と環境とのかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育の取組が活性化しています。特に、各主体が協働して行う身近な地域の特性を活かした学習が進み、体験型学習や地球規模の視野に立った学習も広がりつつあります。学校では、体験を重視し身近な環境や地域に眼を向ける環境教育が、「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業においても、環境マネジメントの視点から環境教育に取り組んでいるところもあります。市町村でも、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動・NPO活動等地域の行動へと広がりつつあります。

県では、これら各主体の環境教育・環境学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための施策を展開しています。

2 環境教育に関する県の取組

1 環境情報の提供と相談対応の推進【環境計画課】

■ アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）の活動

県では、環境分野に関する相談、情報提供機能を充実強化するため、平成16年4月20日に横浜駅西口の「かながわ県民センター」3階に、「アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）」を設置し、「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」と協働して運営しています。

このコーナーは、「新アジェンダ21かながわ」（P105参照）や地球温暖化、環境教育など環境分野全般の相談に対応するとともに、マイアジェンダ登録（P106参照）の普及や、パートナーシップによる取組をコーディネートする窓口としての業務を担っています。また、ホームページを活用した情報提供も行っています。

県民はもとより、企業、NPO、学校などにも気軽に活用していただくことで、「新アジェンダ21かながわ」の「環」が広がり、身近な環境配慮活動が進むことを期待しています。

アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）の概要

- (1) 場所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター3階
- (2) 電話：045-321-7453（直通）
- (3) E-mail：agendacorner@kccca.jp
- (4) 機能：環境分野の情報提供・相談、普及啓発、情報交換・相互交流機能
- (5) 取り扱い情報：①新アジェンダ21かながわ全般、②マイアジェンダ登録全般、③地球温暖化防止活動、④環境教育、⑤環境NGO・NPO関係、⑥その他環境分野全般
- (6) 対象者層：県民、企業、NPO、学校、市町村等、県内全域のあらゆる主体を対象としますが、特に、県民、企業、NPOを重点対象としています。
- (7) 運営：県とNPO法人（かながわアジェンダ推進センター）との協働により運営。
- (8) その他：環境に関するイベントや環境活動に対する助成金など、環境に関する様々な情報をホームページから発信します。



「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター」

<http://www.kccca.jp/>

「かながわエコBOX」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/ecobox/>

2 地域における環境教育の推進【環境計画課】

■ こどもエコクラブへの支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境のかかわりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の幼児から高校生まで誰でも参加でき、数人から20人程度の仲間と活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動（エコロジカルあくしょん）や自主的に行う活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通の学習活動（エコロジカルとれーにんぐ）を行っています。

県では、平成20年度に県内のクラブ活動の活性化やクラブ間の交流と連携を深めるため、県内交流会とサポーター研修会を開催しました。

▶表2-10-1 県内クラブ数及び会員数の状況

平成21年11月末現在

() 内は平成20年度の登録数

市町村名	登録クラブ数	登録人数	サポーター人数
横浜市	25(33)	3,959(1,103)	340(121)
川崎市	5(5)	1,315(1,128)	131(52)
横須賀市	15(14)	302(441)	44(41)
平塚市	2(7)	47(121)	2(20)
鎌倉市	3(3)	184(138)	35(21)
藤沢市	6(5)	115(88)	60(51)
小田原市	21(19)	77(127)	21(35)
茅ヶ崎市	9(10)	124(178)	54(59)
逗子市	0(2)	0(5)	0(3)
相模原市	19(21)	65(1,133)	14(64)
秦野市	4(8)	271(141)	8(54)
厚木市	3(3)	39(40)	6(6)
大和市	0(5)	0(90)	0(13)
伊勢原市	0(8)	0(492)	0(18)
海老名市	1(1)	10(14)	4(6)
南足柄市	1(1)	3(3)	2(2)
寒川町	2(2)	8(4)	2(3)
開成町	0(1)	0(9)	0(1)
箱根町	4(3)	46(45)	13(12)
真鶴町	2(1)	4(4)	4(1)
湯河原町	4(2)	10(7)	8(7)
合計	126(154)	6,579(5,311)	748(590)

● こどもエコクラブ県内交流会 ●

日時：平成20年11月22日（土）

場所：慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

内容：地球環境カードゲーム「マイアース」を使い、生態系、環境破壊、温暖化など地球環境問題について遊びを通じて考えました。



「こどもエコクラブ」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/ecoclub/index.htm>

<http://www.ecoclub.go.jp/>

■ 環境インターンシップの推進

県では、県内にキャンパスをもつ大学の大学生や大学院生に環境配慮に取り組む企業における職業体験を得させることにより、環境保全及び環境問題の解決に必要な意欲及び実践的能力を有する人材を育成することを目的として環境インターンシップを行っています。平成20年度は、8大学10名の学生を企業3社に派遣しました。

3 学校における環境教育の推進【子ども教育支援課、高校教育課】**■ 各教科等における環境教育の実施**

学校教育においては、社会科、理科、生活科、家庭科等の教科をはじめ、道徳、特別活動など学校の教育活動全体を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

具体的には、小・中・高等学校、特別支援学校において、児童・生徒の発達段階に応じ、人々の活動と環境とのかかわりなどについて、体験を交えたさまざまな学習活動を工夫・実践することより、子どもたちが環境について理解を深め、環境や環境問題に関心をもつとともに、環境を大切にし、環境保全に配慮した行動がとれるよう努めています。

とりわけ、「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色を生かし、学校周辺の自然観察、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や公園などの美化活動、下草刈りなどの森林保全活動などの体験活動を通して、問題解決的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

■ 高等学校における特色ある環境教育

県立高校においては、環境教育に重点的、発展的に取り組む「環境・エネルギー教育重点推進校」（8校）、「環境・エネルギー教育拠点校」（3校）を指定しています。各指定校では、先進的な環境教育活動を行うための研究や、環境に関する意識を高めるための体験活動や講演会などを行っており、積極的に環境教育への取組を進めています。

環境教育への取組の事例としては、里山の環境保全や森林の維持管理などの実習、ビオトープや太陽光発電を利用した環境学習、「総合的な学習の時間」における「環境」に関する課題研究等の学習活動などがあげられます。また、生徒会活動や文化祭等の学校行事で、ごみの分別や空き缶・牛乳パックのリサイクルなどの環境活動に取り組んでいる学校もあります。

全県的な取組としては、各校での環境問題への取組について生徒が発表し、研究討議などを行う「環境シンポジウム」や、環境問題解決に関するレポートを募集し、表彰を行う「エコライフ・コンクール」の開催などを通して、高校生の環境問題に対する意識の高揚を図っています。

▶表2-10-2 環境・エネルギー教育重点推進校及び環境・エネルギー教育拠点校

区 分	説 明	指定高校名
環境・エネルギー教育重点推進校	環境やエネルギー問題に対し、自らの考えを持ち、自分で行動できる資質を育てるための環境教育の先進的な取組の深化・発展を図ります。	県立舞岡高等学校・県立横浜栄高等学校・県立川崎高等学校・県立三浦臨海高等学校・県立平塚農業高等学校初声分校・県立大清水高等学校・県立吉田島農林高等学校・県立海老名高等学校
環境・エネルギー拠点校	環境・エネルギー問題に対し、自らの考えを持ち、自分で行動できる力を育てるための環境・エネルギー教育の取組を実践します。	県立金井高等学校・県立永谷高等学校・県立磯子工業高等学校

2-10

環境教育

4 環境教育を支援するしくみづくり【環境計画課】**■ 新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業**

県では、地球温暖化対策の一環として、学校教育を通じ地域社会での新エネルギー・省エネルギーの普及啓発、導入促進を図るため、新エネルギー・省エネルギーに関して豊富な知識・経験を有する県内の団体等のみなさんに、小・中学校、高校等で実験等を活用した体験型の授業を実施していただく「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」を実施しています。

平成20年度は、74校の小・中学校、高校等で体験型の授業を実施しました。

コラム

茅ヶ崎市立小和田小学校

小和田小学校では、環境にやさしい学校づくりを目指し、雨水貯蔵タンクを活用しての「雨水の利用」を実施しています。

(1) 雨水の利用

中庭に3台の雨水貯蔵タンクを置き、児童や保護者が日常的に活用しています。授業の栽培活動では、アサガオ・トマト・オクラ・ゴーヤなどの水やりにも雨水を活用しており、栽培委員会の花壇づくりや緑のカーテン活動では、毎日朝と昼の水やりにも雨水を活用しています。



(2) 環境教育と地域との関わり

平成19年度から環境教育を特色ある教育活動と位置づけ、日常的に展開するために児童の環境委員会を立ち上げ、「できることから始めよう！」を合い言葉に教育活動を積み上げてきました。「お花スタッフ」という地域の保護者ボランティアも立ち上がり、中庭の花壇づくりに雨水貯蔵タンクの雨水を利用しています。

コラム

真鶴町立真鶴中学校

真鶴中学校では、昭和37年から多年にわたり、JR真鶴駅周辺を清掃する「駅前清掃」を行っています。また、3年生は3月に「町内清掃」を3コースに分かれて実施しています。生徒の自主的な取組が、伝統になっています。

(1) 駅前清掃

生徒会が中心となり、「自分たちの郷土の玄関口である駅前を清掃することにより、訪れる方々に喜んでもらおう」という思いから始まりました。

毎月1回、生徒会本部役員が決定した日の放課後に駅前の広場や跨線橋周辺などを清掃しています。駅前がきれいになることによって汚す人が少なくなり、ゴミの量も減っています。



(2) 町内清掃

地域との交流や責任ある態度の育成もねらいとし、地元の自治会の協力も得ながら活動しています。毎年3月に3年生全員が3コースに分かれて町内全域の清掃活動を行い、地域住民の方々に喜ばれています。

コラム

高等学校「第4回環境シンポジウム」

平成21年3月20日、神奈川県自治総合研究センター研修ホールにて、「第4回環境シンポジウム」を開催しました。県立高校の生徒・教員が参加し、「高校生のエコライフ・コンクール」の表彰及び基調報告、参加体験型ワークショップ等を行いました。

(1) 高校生の発表

平成20年度「高校生のエコライフ・コンクール」で最優秀賞を受賞した大清水高校の生徒により、「グリーンカーテン効果の報告及び大清水ヒートアイランドマップ」についての発表がありました。

(2) 参加体験型ワークショップ

「自分たちに今出来ること、将来できること」をテーマとして、NPO 早稲田環境教育推進機構副理事長塩田真吾さんの指導により、参加体験型ワークショップを行いました。

(3) パネルディスカッション

環境・エネルギー教育重点推進校の取組についての発表を基に、高校生パネリストによるパネルディスカッションを行いました。

